

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！



小宮の丘

教育目標

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしこい子 〇たくましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和7年度 学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 山北 雅史
令和7年10月1日発行
第7号

オレンジ色のディーゼルカーに乗って

校長 山北 雅史

私は八王子生まれで、なおかつ一度も市外へ移り住んだことがありません。おそらくこのまま人生の長さと八王子市民としての長さが同じであろうと思っています。生まれた場所は高尾山の麓の浅川町です。それから片倉町、恩方町と移り、小学校入学の少し前から現在の梶田町(くぬぎだまち)に住んでいます。それなりに長く生きてきましたので、八王子の街の発展をこの目で直に見てきました。特に乗り物が好きだった幼少時代、自宅近くを走るいろいろな乗り物の記憶は今でも鮮明に覚えています。高尾山口まで開通したての京王高尾線はいつも緑色の小さな2両編成の古びた電車で、床が木製でした。お休みの日には時々白い車体に赤い線が入った特急電車が走ってきて子ども心にもわくわくしました。横浜線は茶色い電車で畑の中の単線をガタゴトと車体を大きく揺らしながら走っていました。そのうち山手線や京浜東北線のお古だった緑や青の電車に置き換わりましたが、昔の茶色い電車が大好きだったので少しがっかりしたものです。今は夕焼け小焼けふれあいの里に展示してある陣場高原下行きのボンネットバスが、保育園のころはまだ通常運転していました。たまに母に連れられて八王子市街へ買い物に行く日は、独特の音を響かせて走るこのバスに乗る特別な日でした。こんなことを話していると、本当に年齢がバレますね。若い方には何の話？って感じでしょうか。ご家族の中に、わかってくださる方は、はたしていらっしゃるのでしょうか。

さて八高線はというと。主に八王子の南側が生活圈だった私にとって、八高線はあまりなじみのある路線ではありませんでした。小中学生時代、いつも八王子駅一番端のホームにちょこんと止まっているオレンジ色のディーゼルカーを見ながら「あの列車はどんなところへ行くんだろう」「一度乗ってみたいなあ」とずっと思っていました。その思いが叶うのは高校生の時、友人たちと秩父へ遊びに行った時のことでした。

八王子駅から浅川の鉄橋を渡って、できたばかりの工場が立ち並ぶ北八王子を通り、畑の中に開けた町が見えた時、セメント工場に隣接した駅に着きました。セメント積み出し用の待避線もあったように思います。今にしてみれば、この時が「小宮駅」との初めての出会いでした。新しい今の小宮駅とは全く違う印象です。そして当然その時の私は、将来この街に勤めることになるとは全く思っていませんでした。不思議なものです。

人に歴史があるように、街にも歴史があります。小宮小の校長室からは、ステンレスの車体を輝かせながら小宮の街を颯爽と走り抜けていく4両編成の電車がよく見えます。小宮小の子どもたちが私のような年齢になる頃、この街はどのような姿を見せているのだろう。きっとまた違った様子なのかなと思うとやっぱりわくわくします。もちろんその頃私はいませんけれど・・・。

